クーデターに伴う東ミャンマー緊急支援のお願い

2021 年 3 月 31 日 現地派遣員 有高 奈々絵

2021年2月1日にミャンマー国軍がクーデターを起こしてはや2ヶ月が経ちました。2月末の会報で報告した後、3月27日の国軍記念日にはミャンマー全土で少なくとも114人の一般市民の死亡について報道されています。

クーデター勃発後の死者は3月30日現在520人を超え、拘束中の人も2,000人以上と報道されています。30日にはヤンゴンの南ダゴン地区で対戦車砲が使用され30人以上の死傷者が発生、地区の病院は既に軍に接収されており救助活動も困難との報道がありました。 抗議を続けている人々が「死ぬのは怖い。でも希望のない未来を生きることはもっと怖い」と私たちに発信しています。

メータオ・クリニックのネットワークからの情報によると、現時点でカレン州、カヤー州の少数民族武装勢力エリアに 10,000 人以上がヤンゴンなど都市部から逃れてきているとのことです。

しかし、3月から民主化革命以前の軍政と対立構造にあった少数民族武装勢力が国軍との 戦闘を開始してしまったとの情報もあり、現在その戦闘が激化、3月27日以降カレン州で はイトゥタ国内避難民キャンプを含む複数の村が連日空爆され、子供や老人を含む村人が 10人以上無差別に殺害されました。

その結果約 10,000 人のカレン人がムタウ地区のジャングルの中に避難し、うち 3,000 人以上が国境のサラウィン川を渡りタイのメーホンソンに逃れようとしたとの話です。

タイ政府はメーホンソンやメソトに難民キャンプを準備中と発表していましたが、現時点では国境の不法入国をタイ軍が厳しく監視しており、その結果 2,000 人以上がミャンマーにもどることを余儀なくされています。幼い子供や老人、負傷者も多く、空爆から逃れても食料や医薬品がなければ、過度の栄養失調や感染症などで命が失われる人が増えてくるのは時間の問題です。

1988 年の再来のような今回の危機は、ミャンマー人のためタイにあるメータオ・クリニックの存在意義を試されるものです。クーデター後、メータオ・クリニックは Karen Department of Health And Welfare や Back Pack Health Worker Team などのミャンマー国内およびタイ国境の民族医療団体を通じて、東ミャンマーへの医薬品や救急キットの提供、緊急生活サポートへの支援を行ってきました。ドナーへの緊急支援の呼びかけも開始しており、連日メソトのミャンマーコミュニティから衣類や毛布、食料品が届けられ、クリニックで作った保存食とともにカレン州へ送り出されています。

メータオ・クリニックは 2021 年の Humanitarian Action for Complex Emergencies

(COVID-19 とクーデターのコンプレックスとの意味)の予算として、COVID-19 関連事業 および HIV 関連事業に約 8,568,000 バーツ(約 3000 万円)、東ミャンマー支援に 10,967,500 バーツ(約 3,800 万円)の予算を計上しています。

東ミャンマー支援の内訳は

400,000 バーツ (140 万円) 食料 医薬品 1,500,000 バーツ(530 万円) 衛生用品 200,000 バーツ (710 万円) 医療器具 1,000,000 バーツ (350 万円) 小手術器具 187,500 バーツ(70 万円) 分娩キット 300,000 バーツ (110 万円) 救急キット 125,000 バーツ(40 万円) 救急処置トレーニング費用 80,000 バーツ (30 万円) 病院への紹介費用 400,000 バーツ(140 万円) 緊急生活サポート 3,375,000 バーツ(1,200 万円)

など多岐に渡ります。

これらは状況悪化前の予算であり、今後多数の避難民、負傷者、さらには COVID-19 の アウトブレイクが発生した場合には大幅な増加が見込まれます。しかし、現在調達の目途が 総額の 56%となっており、シンシア院長・ファンドレイジングチームが支援のお願いに奔 走している状況が続いております。

クリニックのスタッフも収入の中から寄付を行っており、JAM も人道的支援を行うために東ミャンマー緊急支援としてまず 72 万円をメータオ・クリニックに提供することを決定しました。

残念ながらこの状況が長く続くことを想定して行動をしなくてはなりません。この危機 にあるミャンマーの人々を継続的に支援するために、皆さまのご協力ご支援を何卒お願い 申し上げます。



空爆されたカレン州ダプノ村(Karen Information Center Facebook より)



空爆を受けジャングルに避難するカレンの人々(Thoolei News Facebook より)



タイ側からサラウィン川を渡ってミャンマー側に戻る避難民(4NEWS Karen State Facebook より)



タイ側の施設に受け入れられた負傷者 (ロイター通信)



ミャンマー側の洞穴に隠れる少女たち(KNU Watch Facebook より)



東ミャンマーに向かう救援物資を積んだトラック